

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↘ 34	62	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 148	123	ヘルパンギーナ	↘ 36	41
咽頭結膜熱	↗ 9	8	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 3	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 56	55	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 232	215	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 13	15
水痘	↗ 50	42	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 46	39	無菌性髄膜炎	↗ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 1	1	マイコプラズマ肺炎	↗ 5	1
突発性発しん	↘ 42	45	クラミジア肺炎	↗ 1	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

ヘルパンギーナ : 天草

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所		55	3	23	30	11	7	1	17		4	1		13		1	3	1	
山鹿保健所		7			10		3		3				*	*					
菊池保健所	1	39	5	9	49	17	14		9		5								
阿蘇保健所				1									*	*			1		
御船保健所					1								*	*					
八代保健所	1	4			32	2	1		2		1								
水俣保健所		24		1					1		2		*	*					
人吉保健所		2		9	17	7	9		2		3	1	*	*					
有明保健所		1		4	61	4	4		5		4								
宇城保健所	24	12	1	5	24	7	3		2		1	1	*	*					
天草保健所	8	4		4	8	2	5		1		16						1		
計	34	148	9	56	232	50	46	1	42	0	36	3	0	13	0	1	5	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	34		1	1	3	1	3	2	2	1		3	14		1	1						1
小児科定点年齢	合計	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	148	14	21	66	27	7	10	1	2													
咽頭結膜熱	9			5	1	1	2															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56				1	8	8	6	8	6	1	2	12	2	2							
感染性胃腸炎	232	1	15	50	30	24	20	14	14	7	14	9	19	3	12							
水痘	50		2	20	14	3	2	6	1	1	1											
手足口病	46	1	4	17	9	4	6	2		2			1									
伝染性紅斑	1								1													
突発性発しん	42		27	12	3																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	36	1	5	15	5	4	3	3														
流行性耳下腺炎	3					2	1															
眼科定点年齢区分	合計	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	13				1		1									4	4	1	2			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	1													1								
マイコプラズマ肺炎	5		1	1	2													1				
クラミジア肺炎	1		1																			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																					

手洗い・咳エチケットでRSウイルス感染症を予防しましょう

先週に引き続き、今週もRSウイルス感染症の報告が増加しています。RSウイルス感染症の症状は、軽い風邪症状から細気管支炎や重い肺炎まで様々であり、さらに無呼吸発作や急性脳症を起こし、命にかかわる場合や重い後遺症を残すことがあります。RSウイルス感染症に対しては特別な治療がなく、対処療法のみですので、予防が大切になります。特に、生後6ヶ月以内のお子さんが初めて感染した場合や低出生体重児、心臓や肺などに基礎疾患を持っているお子さんが感染した場合は重症化の危険性が高まりますので、感染しないように注意が必要です。RSウイルス感染症は、感染した人の咳やくしゃみのしぶきからうつる場合(飛沫感染)と、感染した人との濃厚接触や手指やドアノブ等を介して感染する場合(接触感染)があります。小さいお子さんのいらっしゃるご家庭や、基礎疾患をお持ちのお子さんに接する方々は、以下の予防対策をしっかりと行うようにしてください。

- 感染予防対策
- 流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
 - 咳やくしゃみなどの症状のある方は咳エチケット(マスク着用、咳をするときは口や鼻を覆うなど)を守る。
 - 外出後の手洗いをきちんと行う。
 - 子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する